



## マイナカード時代の資産防衛術

こんにちは。ファイナンシャルプランナーの中澤です。  
マイナンバーカード、すっかり身近になりましたね。  
2020年と2022年のマイナポイント施策をきっかけに一気に普及が進み、今では国民の8割以上が所持していると言われています。  
健康保険証として使えたり、役所での手続きがスムーズになったりと、その便利さを実感されている方も多いのではないのでしょうか。

### 便利さとその影

便利さの一方で、忘れてはいけない現実もあります。  
マイナンバーカードは税や年金、医療、社会保障に加え、銀行や証券口座まで幅広い情報が紐づけられ、国に資産の全体像を把握される仕組みです。  
普段は手続きが楽になって便利に感じて、その裏では「国に監視されている」という現実があることを、私たちはつい忘れてしまがちです。

### NISAと資産管理の現実

その象徴ともいえるのがNISA制度です。  
NISA口座は一人一口座に限られ、マイナンバーと完全に紐づけられています。  
「資産形成を応援します」と政府は後押ししていますが、同時に「誰がどれくらい投資をしていて、どれくらい資産を所持しているか」を国に把握される仕組みです。  
つまり、私たちの資産もまた国に監視されているのです。  
複数の口座を持っていないのは、資産を監視しやすくするためではないか—そう感じる方もいるかもしれません。



### 繰り返される“安心”の裏切り

思い返せば、年金は「100年安心」と言われスタートした制度です。  
ところが「老後2000万円不足」が提起され、いつの間にか3000万、今では4000万円不足とシレっと上積みされました。  
さらに「老後資金は安心」と広がったiDeCo・企業型DCも、いまは税金を取りやすくする方向で議論が進行中。  
—良い制度だと信じさせ、普及した後に条件が変わる。  
この繰り返しです。  
ではNISAは？ 非課税だけが強調されますが、資産を一家所に集め国が正確に監視できる仕組み。  
将来ここからも課税しやすくする布石ではないのか？  
私たちは何度も「安心」に裏切られてきましたが、いつまで信用し続けますか？



### まとめ

私は現行のNISA制度を否定するつもりはありません。  
むしろ有効に活用すべき制度だと思います。  
ただ、私たち日本国民は「信じてきたばかりに裏切られる」という経験を繰り返してきました。  
だからこそ大切なのは「もしも制度が変わっても動揺しない仕組み」を自分で持つことです。  
資産を一つに偏らせず、分散することが安心だと私は考えています。  
そして2026年にはマイナンバーカードが新しくなり、名前も変わる予定です。  
名称は公募で決める案も出ているようですね。  
マイナンバーカードにはまだ否定的な印象が残る中、カードと名称を一新してリセットを狙っているようにも見えます。  
...とはいえ、決まった事は受け入れるしかないので、もしカードの名称を公募で決める場合には、せっかくなので皆さんも名前を考えてみてはいかがでしょうか？笑

- ・投資に関する相談
- ・相続に関する相談
- ・保険の見直し
- ・住宅ローンの借換
- ・結婚、出産等による環境変化の相談 etc.

お金に関するご相談何でも承ります。  
大切なご家族様、ご友人様をご紹介ください。

著者／中澤 賢一  
保有資格／クレジットカードアドバイザー®  
投資診断士 相続診断士 生成AIパスポート  
ファイナンシャルプランナー  
2025年度MDRT成績資格会員  
MAIL / fp.nakazawa.kenichi@gmail.com  
TEL / 080-7359-4129